

幸せて豊かな未来へ、旭川医科大学のこれからの挑戦

遙か大雪山系を臨む自然豊かな北の大地にキャンパスを構える旭川医科大学は、2013年11月に開学40年を迎えました。「地域医療に根ざした医療・福祉の向上」を建学の理念に掲げ、広い北海道における医療の拠点として、積極的に活動を展開し、大きな成果を上げてきました。これもひとえに関係者の方々や地域の皆様の暖かいご支援の賜物であり、心より感謝申し上げます。

ご承知のとおり、地域医療の現場は、医師不足・看護師不足に直面しています。特に北海道では深刻な状況であり、地域間の医療格差として大きな社会問題となっています。併せて、北海道は全国を上回るスピードで高齢化が進むと予測されています。命の重みにストレートに直結する地域医療をいかに守っていくか。旭川医科大学に課せられた使命には、大きなものがあります。

旭川医科大学では、北海道の医療事情を考慮し、2008年度から、北海道の地域医療を担う医師を育てるために「地域枠」制度をいち早く導入し、北海道在住の若者達に大きく門戸を広げました。その結果、北海道出身者が入学定員の6割を占めるに至っています。そして、母校に残り初期研修を行う卒業生は、毎年増え続け、2016年4月には40名を超えています。

また、地域間の医療格差の是正を目指し、1999年、全国で唯一設置された遠隔医療センターは、広大で、極めて冬季の移動の負担が大きい北海道において、地域医療への想いと最先端ICTが融合した施設として、医療の現場での実績を重ねており、これからの国の医療制度を変える礎となることが期待されています。

併せて、地域医療への貢献を志す意欲溢れる人材を育成するため、本学独自の奨学金制度や、授業料特別貸与制度などの支援策を完備し、海外研修等については費用の一部を大学が助成するなどの対策を実施しています。地域住民への公開講座、各分野の専門家による派遣講座、身近な健康管理情報等をインターネットで提供する「北海道メディカルミュージアム」の実施など、地域に開かれた大学としての更なる充実も図っています。

今後も引き続き、地域の幸せて豊かな未来を切り拓くための「新たな挑戦」を続けていく所存ですが、そのためには、本学独自の安定した「財政基盤の確立」も必要になります。

何卒、趣旨をご理解いただき、旭川医科大学基金へのご支援を賜りますようお願い申し上げます。



国立大学法人 旭川医科大学
学長 吉田 晃 敏
(旭川医科大学第一期生)